

川口の教育



【 令和7年度 川口の元気 第10回中高生未来を拓くふれあいトーク 】

第675号

【目次】

指導の手引き 「学びの多様化学校について」

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 笠原 たまき (2)

文化財センターの紹介 「あなたは、まだ本当のベーゴマを知らない ① 鋳物編

教育総務部 文化財課 (3)

私の教育実践 「運動好きな児童を育てる体育授業」～体力向上推進委員の実践を通して～

川口市立青木中央小学校 教諭 須藤 斗輝 (4)

令和7年度 埼玉県学校総合体育大会（中学校の部）結果 (5～6)

教育ルポ (7)

8 月号
—令和7年—

編集・発行 川口市教育委員会

指導の手引き 「学びの多様化学校について」

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 笠原 たまき

1 はじめに

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する文部科学省指定の学校である。令和7年度4月現在、全国に58校設置されている。本市では、令和8年度、4月の開校を目指し、準備を進めている。川口市の学びの多様化学校について理解を深めるとともに、引き続き、個に寄り添った不登校支援の充実をお願いしたい。

2 経緯

平成17年 「学校教育法施行規則」改正により「不登校特例校」が誕生する。
令和5年 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」
資料に基づき、名称が「学びの多様化学校」へ変更される。川口市も、設置に向けた準備を始める。
令和7年 学校説明会、プレスクール等を開催し、生徒の募集を開始する。
令和8年 4月開校予定。

3 本市が目指す学びの多様化学校の特徴について

(1)方針

「つながる学校」をコンセプトとし、「人とつながる」「学びがつながる」「未来につながる」学校を目指す。

教育は、「人格の完成」と「社会の形成者の育成」を期して行われるものであり、川口の子供たちを学校という集団において、人と人との豊かな関わりの中で育てていきたいと考えている。このことから、本学校についても子供たちが豊かな人生を送るために、義務教育を修了した後も、様々な人と関わりをもち続けることが重要であるという考えに立ち、学校に集い、人との関わりの中で学ぶ力を育むことを方針としている。

(2)概要

- 【校種】 中学校
- 【生徒数】 各学年1学級15名程度
- 【場所】 川口市立芝西中学校陽春分校
- 【コンセプト】 つながる学校

- ①対面での教育活動を主とし、学習機会を保障
- ②生徒の学習に対する負担を軽減する特別の教育課程
- ③個に応じた進路指導の実施

(3)学校生活・学習・授業等での配慮(例)

- 遅めの始業時間を設定 ○授業時間は1単位時間を45分授業 ○制服・体育着の指定なし ○年間授業時数を2割程度削減(840時間) ○ICTを活用した「心の健康観察」 ○個に応じた学びの時間のための新たな教科を設定 等

4 転入学の対象となる生徒

- ①川口市内に在住している。
- ②病気又は経済的な理由以外で概ね年間30日以上欠席、現在もその状態が続いていること。
- ③入学前から在籍校を通じ、教育支援センターへ継続的に相談するなど、情報が共有されていること。
- ④生徒に本校へ登校しようとする意欲があること。また、保護者が本市多様化学校に関して理解をいただけること。
- ⑤通常学級に在籍している生徒。

5 令和8年4月 転入学生の手続き

①教育相談室へ相談

- 面談や教育支援センターの見学・体験
- 正式入室の手続き

②教育支援センターへの入室

- 教育支援センターでの生活
- 転入学希望者説明会の申込

③転入学希望者説明会への参加

- プレスクールへの申込(保護者から学校へ提出)
- 転入学を希望する家庭は必ず参加します。

④プレスクール(体験授業)への参加

- 転入学の意思確認
- 転入学の申込(保護者から学校へ提出)

⑤教育委員会における検討

- 学びの多様化学校での支援が適切か検討します。別の支援が適切と判断されることもあり、希望をすれば転入学できるわけではありません。

⑥教育委員会からの通知

- 転入学の手続き
- 転入学生徒保護者説明会、準備登校等

6 おわりに

今後も、より一層不登校児童生徒への個に応じた支援の必要性が高まることが予想される。引き続き、指導課からも、県や国の動向を注視し最新の情報を発信していく。各校でも、不登校児童生徒への理解を深め、適切なアセスメントをお願いしたい。

【参考文献】

- ・ **資料** 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン) (令和5年3月 文部科学省)

【情報】

- ・ 川口市ホームページ 学びの多様化学校



あなたは、まだ

本当のベーゴマを知らない ① 鋳物編

教育総務部・文化財課 文化財センター「郷土資料館」

●1 川口の鋳物業のあらまし

川口の鋳物業のはじまりは、江戸時代より前の資料が発見されていないため確定することはできない。少なくとも、江戸の町の発達に伴って鍋や釜などの日用品の需要が増加し、川口の鋳物業も発展したことがわかっている。

江戸時代後期の『遊歴雑記』にも、川口の鋳物工場の様子が記されている。幕末には、幕府や諸藩の求めに応じて多くの大砲や砲弾が作られた。 (下画像: 鍋平ポスター 明治28年)



荒川と芝川も鋳物業の発展に一役買っている。川で採取された砂と粘土が鋳物づくりに使われた。さらに、舟運による原材料や製品の輸送路としての役割も担った。

その後、日本初の民営鉄道である日本鉄道が明治15年に川口* - 熊谷間から建設を開始し、翌年には上野 - 熊谷間が開通して営業開始したことで、のちに川口の鋳物業は販路を広げることになった。



*当時の敷設工事で大活躍した蒸気機関車は、組み立てられた場所、川口の善光寺に由来して『善光号』と呼ばれた。工事の起点となったJR川口駅の銘板にデザインされており、車両本体はさいたま市の「鉄道博物館」に展示されている。

●2 「ベーゴマの聖地」と呼ばれる理由

昭和34年(1959)、荒川沿いの工場地帯には大小1600以上の工場が並び、年生産額は400億円=全県工業生産の30%を占めた。



当時、市内にベーゴマを作っている会社は50~60社ほど* あったという。

(株)日三鋳造所(以下「日三」という)がベーゴマ作りを始めたのは昭和45年。別の会社が使っていた古いベーゴマの金型を譲り受けて以来、修復を繰り返しながら今もなお現役で使っている唯一の会社である。

*川口では昔から「鋳物屋が暇になるとベーゴマが流行る」と言われる。これは昔、鋳物職人の賃金で作った製品の重さで決まる歩合制だった頃、暇な時期に余った鉄を使って職人が作り溜めておき、秋になると小遣い稼ぎに問屋へ売るので駄菓子屋の店頭でベーゴマが並び、それを冬に子どもたちが買って遊ぶ、という風景から由来する。そのため、どの工場でも製品の記録にはベーゴマが残っておらず、作っていた工場は不明。

ベーゴマは全国各地でも作られていたが、子どもたちの遊びの変化などによって徐々に減り、平成10年(1998)には最後となった日三も工場を閉鎖することになった。すると、それを知ったファンから製造再開を望む声が殺到した。2年後一。熱い要望を受け、別の会社に鋳造を委託して仕上げや検品、販売を行う形で日三が再開。川口で「全国ベーゴマ選手権大会」が開催され、毎年、全国からベーゴマファンが集うことから「川口はベーゴマの聖地」と呼ばれている。

<私の教育実践>

運動好きな児童を育てる体育授業

～体力向上推進委員の実践を通して～

川口市立青木中央小学校 教諭 須藤 斗輝



1 はじめに

「運動好きな児童生徒の育成を目指して」
本県の児童生徒の体力・運動能力は全国平均値を超えているにも関わらず、運動が好きと感じている児童は全国平均と比べて低い傾向にある。「学校体育必携」には特に体育授業を改善していくことで「運動好き」な児童生徒を育成することが示されている。私は体育授業を通して幸福感を味わうことが運動好きな児童の育成につながると考え、日々の体育授業に取り組んでいる。本稿では、昨年度に川口市体力向上推進委員として研究した体づくり運動の実践の一端を述べる。

2 運動の魅力や特性を生かした体づくり運動の授業
体づくり運動の魅力でもある「運動の仕方を工夫することで得られる自己の伸びや達成感を味わうこと」により、自ら進んで運動に取り組む児童の育成につながようと考えた。

2 運動の魅力や特性を生かした体づくり運動の授業

体づくり運動の魅力でもある「運動の仕方を工夫することで得られる自己の伸びや達成感を味わうこと」により、自ら進んで運動に取り組む児童の育成につながようと考えた。

(1) 単元計画の工夫

自己に適した運動に工夫（レベルアップ）を加えながら体の動きを高めることができるような単元となるように以下のような単元を計画した。

期間	1	2	3	4	5	6	7	
学習過程	オリエンテーション 体の動きを高める 必要性とは？	体の柔らかさを高める運動 下半身の柔らかさ 上半身の柔らかさ	巧みな動きを高める運動 バランス力の鍛錬 タイミングスキル	基本の運動 運動の工夫(レベルアップ) ほめほめタイム(自分の伸びの確認・仲間との認め合い)		自己の課題解決 自分の課題に対して自分で運動と工夫を選択	自己分析シート 再度チャレンジ！ 自己の伸びの実感！	評価 体の動きを高める運動の行い方(授業以外の運動)
評価	知識	運動	思・判・表	運動	思・判・表	思・判・表	学び・知識	

図1 単元計画

(2) 教材教具の工夫

①自己分析シートの活用

自己の体力の課題に気づき、課題解決に向けて、主体的に学習に取り組むことができるよう、単元のはじめに体力の現状を知ることのできる「自己分析シート」を作成し、課題を見付けられるようにした。

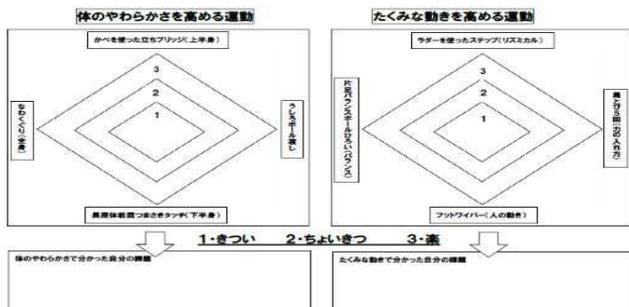


図2 自己分析シート

②レベルアップ表の活用

体育授業では学級全体でのねらいと併せて、児童一人一人が目標を持って授業に取り組めるようにしている。体づくり運動では、自己に適した体の動きの高め方を通して、個別の目標を達成できるようにした。その際、学年間の系統を意識し、6年生では自分たちで考えた工夫（レベルアップ）を実践し、やってみたいと思える運動になるように、教材（基本の運動）との出会いを大切にした。

体の動きを高める運動 レベルアップ表					
たくみな動きを高める運動					
長なわとび					
運動1	運動2		運動3		
ゆるしたなわ	回転したなわ		回転した2本のなわ		
レベルアップ1	レベルアップ2	レベルアップ3	レベルアップ4	レベルアップ5	レベルアップ6
向きを変える	ゲー チョコ パー	ボールを ドリブル	人数を 増やして	短なわを とびながら	

図3 レベルアップ表

自分たちで考えた工夫を書き込めるように！

3 「教師行動」の充実

本学級児童（6年）のアンケートによる意識調査である。

体育授業で「やってみよう！」と思うのはどんな時ですか？	
自分一人で行う時	80%
友達と一緒に取り組む時	100%
授業の雰囲気がいよい時	100%
先生に見てもらいたいとき	83%

この結果からも分かる通り、体育授業において「やってみよう！」と感じる条件の一つとして「授業の雰囲気」を大切にしている児童が多い。私の理想の授業は、「たくさん声をかけ、教師も汗をかく授業」である。そのために私は、1単位時間の授業の中で一人に1回は必ず声をかけるよう意識をしている。その中でも、本時の課題に沿った声かけや、前回からの成長を認める声かけなど、児童の些細な変容した姿を認める、肯定的な声かけを意識している。



4 おわりに

体育は、運動を通して教師も児童生徒も一緒に汗をかき、仲間とともにさわやかな達成感を味わうことのできる魅力あふれる教科である。やはり、運動は仲間と一緒にやるから楽しい。仲間と競い合うから楽しい。その楽しさは体育だからこそ味わえることも多い。非常にシンプルであるからこそ、どの児童生徒にも運動好きになるきっかけやチャンスがある。これからも運動の特性を生かした体育授業の実践を積み重ね、児童生徒が幸福感を味わうことができるように努めていきたい。

令和7年度 埼玉県学校総合体育大会(中学校の部)結果 ※一部抜粋

県大会 7月12日～ 8月1日

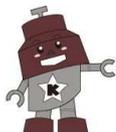
競技種目	県大会 結果 (抜粋)	
	(○印 関東大会出場 ◎印 全国大会出場 ※県大会終了時点)	
軟式野球	ベスト8 鳩ヶ谷 ベスト16 芝東・岸川	
サッカー	ベスト16 西 2回戦敗退 戸塚西 2回戦敗退 里	
	男子	女子
ソフトボール		ベスト8 鳩ヶ谷 1回戦敗退 北
ソフトテニス (団体)	優勝 上青木○ 第2位 芝東○ 3回戦敗退 鳩ヶ谷 1回戦敗退 幸並	第3位 芝東○ ベスト8 戸塚 3回戦敗退 上青木
ソフトテニス (個人)	優勝 村田・桐山(上青木)○ 第2位 小吉・森島(上青木)○ 第5位 福田・真中(上青木)○ 第6位 川嶋・池田(上青木)○ 3回戦敗退 上野・宇田(芝東)、伊藤・久保田(芝東)	第2位 内田・原田(芝東)○ ベスト16 小杉・内藤(芝東) 3回戦敗退 在原・都竹(上青木)、二木・浅利(戸塚)
バスケットボール	ベスト8 榛松 ベスト16 戸塚 2回戦敗退 幸並	2回戦敗退 北 2回戦敗退 神根 1回戦敗退 戸塚西
バレーボール	ベスト8 戸塚 ベスト16 戸塚西 1回戦敗退 北	ベスト16 戸塚 2回戦敗退 安行 2回戦敗退 十二月田
卓球 (団体)	1回戦敗退 戸塚 1回戦敗退 在家	2回戦敗退 鳩ヶ谷 1回戦敗退 幸並 1回戦敗退 十二月田
卓球 (シングルス)	3回戦敗退 上村(東) 3回戦敗退 中村(八幡木) 2回戦敗退 小峰(芝) 1回戦敗退 川田(戸塚西)、岡山(仲町)	3回戦敗退 加藤(安行) 2回戦敗退 酒井(東) 2回戦敗退 渡部(南)、栗原(鳩ヶ谷) 1回戦敗退 津嶋(鳩ヶ谷)
卓球 (ダブルス)	4回戦敗退 三浦・野沢(在家) 2回戦敗退 石田・島田(戸塚西) 2回戦敗退 太田・平田(戸塚西) 1回戦敗退 澤邊・笹沼(在家) 1回戦敗退 小山・小笠原(戸塚)	3回戦敗退 菅沼・神永(在家) 2回戦敗退 坂本・細渕(南) 2回戦敗退 仲里・大澤(十二月田) 2回戦敗退 君塚・近藤(幸並) 1回戦敗退 小谷・木村(鳩ヶ谷)
ハンドボール	優勝 HC川口○ ベスト4 十二月田 2回戦敗退 神根、榛松 1回戦敗退 東	ベスト4 HC川口 ベスト8 東 2回戦敗退 神根、戸塚西、十二月田 1回戦敗退 榛松
バドミントン (団体)	ベスト16 八幡木 ベスト16 岸川 2回戦敗退 戸塚	ベスト16 八幡木 2回戦敗退 岸川
バドミントン (シングルス)	2回戦敗退 小芝(岸川)、新山(八幡木) 2回戦敗退 小林(岸川)、小林(八幡木) 1回戦敗退 法本(芝)	2回戦敗退 高松(岸川) 2回戦敗退 菊池(八幡木) 2回戦敗退 原(北)
バドミントン (ダブルス)	3回戦敗退 小林・新山(八幡木)、小芝・小林(岸川) 2回戦敗退 関・橘(戸塚)、碓・鈴木(戸塚) 1回戦敗退 大内・山本(岸川)	2回戦敗退 秋山・高松(岸川) 1回戦敗退 多田・大関(八幡木)、清水・西牧(岸川)
体操競技 (団体)	第6位 芝西 第9位 戸塚西	第8位 戸塚西 第9位 芝西
体操競技 (個人)	第3位 坂井(安行)○ 第10位 伊藤(芝東)	第3位 河野(青木)○

令和7年度 埼玉県学校総合体育大会(中学校の部)結果 ※一部抜粋

県大会 7月12日～ 8月1日

競技種目	県大会 結果(抜粋)	
	(○印 関東大会出場 ◎印 全国大会出場 ※県大会終了時点)	
	男子	女子
新体操 (団体)		優勝 芝西◎ 準優勝 戸塚西◎
新体操 (個人)		第3位 吉村(戸塚西)○ 第4位 相澤(戸塚西)○ 第9位 尾田(戸塚西) 第16位 佐藤(芝西) 第19位 加藤(芝西) 第22位 船水(芝西) 第27位 久保田(安行)
柔道 (団体)	第3位 西○ ベスト16 戸塚、安行東、YAWARA	ベスト8 西 ベスト16 安行東
柔道 (個人)	優勝 佐川(西)81kg級◎ 優勝 栗栖(西)90kg級◎ 第3位 石川(戸塚)55kg級○ 第3位 片桐(西)90kg級○ 第5位 武藤(西)50kg級 第5位 大竹(YAWARA)66kg級 第5位 西村(YAWARA)81kg級 ベスト8 堀口(戸塚)73kg級、種市(西)90kg超級	優勝 中山(西)48kg級◎ 第2位 朝倉(川口柔連)44kg級○ ベスト8 後藤(川口柔連)63kg級 ベスト8 相田(芝東)63kg級 ベスト8 小山(安行東)70kg級
剣道 (団体)	2回戦敗退 上青木 1回戦敗退 安行 1回戦敗退 十二月田	2回戦敗退 北 2回戦敗退 岸川 2回戦敗退 十二月田
剣道 (個人)	第3位 吉川(十二月田)○ 5回戦敗退 五十畑(戸塚) 4回戦敗退 尾崎(十二月田) 3回戦敗退 長瀬(北)	3回戦敗退 前田(北) 3回戦敗退 白石(岸川) 3回戦敗退 島崎(幸並) 3回戦敗退 杉崎(十二月田) 3回戦敗退 齋藤(北)
陸上競技	優勝 大久保(領家)1年100m○ 第2位 目黒(十二月田)2年100m○ 第4位 加藤(芝東)四種競技 第5位 照沼(戸塚)円盤投 第6位 今村(附属)走高跳	第2位 庄司(安行東)200m○ 第3位 牛渡(安行)3年100m○ 第5位 齊藤(上青木)円盤投 第8位 由利(西)1500m
水泳競技(団体)	第5位 元郷 4×100mフリーリレー○	
水泳競技 (個人)	優勝・優勝 山本(領家)高飛込◎・飛板飛込◎ 第3位・第4位 栗田(北)1500m自由形○・400m自由形○ 第4位 原沢(東)400m個人メドレー○ 第5位 小林(芝東)200mバタフライ○ 第5位・第6位 田中(戸塚西)400m個人メドレー・200m個人メドレー○ 第6位・第9位 森(芝西)200mバタフライ○・100mバタフライ○ 第7位・第10位 石光(芝東)200m平泳ぎ○・100m平泳ぎ○ 第10位・第10位 中平(元郷)200m背泳ぎ・100m背泳ぎ	第8位・第9位 川島(北)200m自由形○・100m自由形○ 第10位 会田(十二月田)200m個人メドレー
テニス (団体)	第2位 青木○ 第3位 小谷場	第3位 小谷場 第5位 青木
テニス (シングルス)	2回戦敗退 飯塚(青木) 2回戦敗退 小川(安行)	2回戦敗退 船戸(里) 1回戦敗退 扇本(小谷場)
テニス (ダブルス)	第3位 三浦・生見(青木)○ 2回戦敗退 仁島・嵯峨(青木) 1回戦敗退 青木・河井(小谷場)	第3位 高橋・水野(青木)○ 2回戦敗退 富田・渡辺(小谷場)

教育ルポ①



「令和7年度 川口の元気 第10回中高生未来を拓くふれあいトーク」

期日：令和7年7月16日（水）



令和7年7月16日（水）に「令和7年度 川口の元気 第10回中高生未来を拓くふれあいトーク」が開催されました。当日は市内27中学校から各1名と川口市立高等学校から4名の計31名の生徒が参加し、『中高生が考える10年後の川口市、こんなまちになってほしい』をメインテーマにし、協議を深めました。さらに、川口市立高等学校の生徒からは、『第5次川口市総合計画』の『川口市の将来の姿』を読み、メインテーマに沿って、市長にプレゼンテーションを行いました。

令和7年度 川口市立小・中学校中堅教諭等資質向上研修の様子

